

切り花リンドウの市場動向分析

菅原 豊司・佐々木 健治

(岩手県農業研究センター)

Market Trends Analysis of Gentian for Cut Flower

Toyoshi SUGAWARA and Kenji SASAKI

(Iwate Agricultural Research Center)

1 はじめに

花きは他の作物と比べ嗜好性が強いことから、品目、品種、規格間の価格差が比較的大きく、的確な需要動向の把握が必要である。特に岩手県花きの中心品目である切り花リンドウは、全国一のシェアを占めていることから、責任産地としての対応が重要となっている。

そこで、本報告では、切り花リンドウについて花き市場データを中心に動向分析を行い、今後の対応方策を明らかにする。

2 試験方法

(社)日本花き卸売市場協会の「花き卸売価格等調査」及び東京都中央卸売市場年報を用いて月別数量及び価格について需要関数計測等により市場データを分析した。

また、市場、仲卸業者、小売店等で聞き取り調査を実施した。

3 試験結果及び考察

切り花全体の販売額が微増傾向にあるなかで、リンドウの販売額は、1994年をピークに低下してきており、1996年については平年に比べ9～10月の単価の低下が著しかった(表1、図1、表2)。次に、切り花リンドウの需要構造を解明するために、表3注2)の式により、地域別・月別の需要関数を計測した(表3)。

計測結果について分析したところ、表4の傾向区分の月、地域が確認された。

表1 切り花総販売金額

年次	年計卸売金額(千円)
1988	181,803,923
1989	194,709,838
1990	231,177,733
1991	251,812,953
1992	244,799,748
1993	263,415,160
1994	266,671,508
1995	267,508,444
1996	270,922,469

注. 出典資料: (社)日本花き卸売市場協会
「花き市場流通調査概要」

《市場調査聞き取り内容》

(1) 調査日時 平成9年8月5日

(2) 聞き取り相手 大田市場 (株)大田花き* セリ担当者

※: 全国の市場卸会社188社中切り花については全国一位のシェア(約8%)を占める。

(3) 聞き取り内容

1) リンドウは昨年(平成8年)は10日遅れの出荷となり価格を下げたが、逆に本年はかなり多い出荷量である。昨年の8月上旬分の数量が1日で入荷しているため飽和状態となり値を崩している。

2) 仲卸業者は、予約相対で数量を押さえているが、過剰な出荷により、セリ値が暴落し、予約を入れた業者に不利となっている。

3) 入荷情報は1週間前に、確実なものは遅くとも1日前に、仲卸まで流しておけば入荷のパターンから売り先を確保できると思われる。

4) リンドウは一般のアレンジ等への使用頻度が低い。ため、仏花需要以外は常に飽和状態になっている。使い道を広くするには、色、咲き方(つぼみの状態)に改良が必要である(例. 長野県の個人が育種したピンクのカップ咲

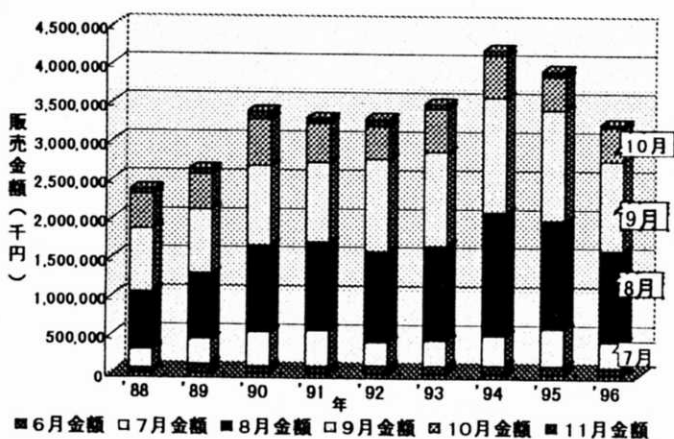


図1 切り花リンドウの月別販売金額(全国計)の推移

表2 主要月別単価の推移

(単価: 円/本)

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
過去5年平均*	116	77	63	49	57	47	45
1996年	107	78	68	46	40	39	44

注. 出典資料: 表1に同じ

*: 1992年～1996年平均

表3 切り花リンドウの月別地域需要関数（両対数トレンド型：計測期間1992～1996年）

市場地域	定数項	回帰係数(B)	t 値	回帰係数(C)	t 値	決定係数	d.w比
6月東北	1.7	-0.14	-1.05	0.03	1.15	0.68	3.26
6月関東	9.3	-0.33	-6.07	-0.04	-4.51	0.98	3.41
6月東京	7.5	-0.13	-0.60	-0.03	-1.00	0.72	1.49
6月中旬部	8.2	-0.43	-3.00	-0.02	-1.60	0.88	3.14
6月関西*	4.9	0.73	0.75	-0.05	-1.27	0.46	1.95
7月東北	4.9	-0.34	-1.85	0.01	0.31	0.66	1.95
7月関東	6.0	-0.42	-1.88	0.01	0.19	0.64	1.39
7月東京	5.1	-0.42	-5.81	0.02	1.29	0.95	2.74
7月中旬部	4.6	-0.41	-2.12	0.02	0.50	0.70	1.67
7月関西*	5.2	-0.29	-1.47	0.01	0.35	0.52	2.48
8月東北	-6.3	0.35	1.25	0.08	3.60	0.87	3.61
8月関東	18.5	-1.46	-0.55	-0.03	-0.59	0.39	2.07
8月東京	10.6	-1.75	-6.03	0.09	12.08	0.99	2.54
8月中旬部	-9.8	0.65	0.29	0.09	1.05	0.52	3.38
8月関西	-2.8	0.78	1.47	0.00	-0.07	0.58	3.14
9月東北	10.0	0.57	2.24	-0.11	-4.79	0.92	2.38
9月関東	12.2	-1.51	-1.56	0.04	0.36	0.88	2.48
9月東京	16.6	0.30	0.24	-0.16	-0.90	0.81	1.45
9月中旬部	11.2	-2.31	-2.94	0.10	1.26	0.94	3.36
9月関西	19.0	1.21	0.99	-0.27	-1.57	0.75	2.47
10月東北*	8.2	-0.95	-3.73	0.02	0.25	0.94	2.36
10月関東*	3.9	-0.91	-4.62	0.07	1.24	0.95	2.94
10月東京	10.0	-1.09	-1.52	0.02	0.26	0.57	1.41
10月中旬部*	1.5	-0.15	-1.60	0.03	0.52	0.60	2.42
10月関西*	9.7	-0.31	-0.51	-0.04	-0.72	0.34	3.30

注. 1) *は計測期間1991～1995年
 2) 需要構造を把握するため、表1出典資料について全国11地域別に月ごとの両対数トレンド型の需要関数を測定したものうち、岩手県産リンドウの主要出荷地域を抽出した。
 $\log Pc = a + b \log Qc + c \times T$
 Pc：リンドウの卸売価格（円／本）（月別消費者物価指数でデフレート）
 Qc：リンドウの卸売数量（千本）
 T：西暦年（都市：下2ケタ）

き品種等は引き合いが強い）。

5) 需要期としては8月後半は難しいことから、7月の新盆向けに増量を図る。

6) スーパー等の量販店が扱うホームユース向けが増えており、これらに対応したM、S規格があれば、L規格で買って短く切ったりする手間が省ける。こうした使い手に合わせた製品化が重要である。

4 ま と め

切り花リンドウ市場は、お盆等の物日需要については、減少傾向にあり、また、小売店についても、専門店よりも、より安価な量販店からの購入が増加してきていると言われている、需要動向が減少傾向にある要因は、こうした流通

表4 需要関数の計測結果

出荷弾性値が-1.0を下回る月地域 （卸売数量が増加すると、単価が下落し、 全体の販売金額も減少する、言わば、需 要量が満たされている月地域）	8月（東京） 9月（中部）
出荷弾性値が-1.0を上回る地域 （卸売数量が増加すると、単価は下落す るが、その程度は小さく、全体の販売金 額は増加する、言わば、需要量が飽和に 近い月地域）	6月（関東、 中部） 7月（東北、 関東、東京、 中部、関西） 8月（東北、 関東）
出荷弾性値が0.0を上回る地域 （月間で入荷量が増加しても、単価が上 昇し、販売金額が大幅に増加する、言わ ば、需要量の飽和まで余裕がある地域）	9月（東北）
トレンド減少 （マイナスの場合その絶対値が大きいほ ど需要の年別減少程度大きい）	6月（関東） 9月（東北）
トレンド増加 （プラスの絶対値が大きいほど需要の年 別増加程度大きい）	8月（東北、 東京）

表5 都中央卸売市場入荷産地別7月以前出荷量比率

年次	岩手県	福島県	栃木県	長野県
1993	4.8%	12.7%	58.1%	24.4%
1994	6.2%	10.4%	33.1%	36.7%
1995	13.1%	10.3%	49.9%	37.7%
1996	2.7%	6.6%	53.0%	38.2%

表6 東京都中央卸売市場産地別単価の推移

年次	岩手県	福島県	栃木県	長野県
1993	52	46	55	71
1994	56	50	57	67
1995	49	50	61	62
1996	41	34	57	59

（単位：円／本）

構造、消費構造の変化によることも関連あるものと考えられる。

こうした経過から、消費量は現在頭打ちの傾向にあるが、単価が低落した1996年については、春先の低温による生育遅れが物日需要に間に合わなかった等の事情もあり、もっと短期間の需要動向について把握する必要がある。

また、物日以外の時期の需要把握と対応した最適出荷量の算出等も必要である。